

# 解散公演について

バナナ学園純情乙女組主宰の二階堂瞳子です。

やっとお伝え出来ます。

12月28日から12月31日まで、王子小劇場にてバナナ学園純情乙女組の解散公演が決定しました。

本当に本当に嬉しいです。

劇団として精一杯誠実に対応しようとした結果、解散という決断に至ったこのマインドに共感してくれて、当たり前のように悲しいし辛いし死ぬほど疲れるであろう団体の最後の解散公演という発表の場を提供してくれ、舞台の創り手として色々な制約を受け入れることの苦々しさ、そして一度やってしまった事へのカッコ悪さと一緒に引き受け、一緒に踏み込んでくれた王子小劇場の芸術監督の玉山さんをはじめ、劇場の職員全ての方々に感謝します。

私たちは前回公演で行ったことで、今までバナナ学園純情乙女組を支えてくださった皆様に大変不快な思いをさせてしまった事を深くお詫び申し上げます。

謝罪する、というのは私は5月の作品を否定するのではなく、人を傷つけてしまったことに対して謝り、責めを負うために解散するという事です。

だから最後の公演は、観に来ていない誰かに、ネットで潰し合いをしている誰かに、ただ個人的にムカついて嫌悪している誰かに、ではなく、今までバナナ学園を応援し支え続けてくれて、もしかしたら解散という決断すら不実に思われるかもしれない、でもそうした事態になっても待ってくれていた観客の皆様へ向けての最後の返答です。

ファンの皆様のために創り続けます。

いつも通りに、いつも以上に冷静に、秩序あるバナナ学園をやります。

やっぱり私たちの旬は短かったけれど、でもそれを含めて今だるーがよって、破壊で終わらず、投げやりにならずに向き合います。

…本当に余談かもしれません、ちょっと超個人的な話をします。

何となく私が今、非常に前向きに取り戻して来れたのは、今、私の飼っている大好きな猫が、瀕死状態にあるからかもしれません。子猫の内に数パーセントの確率の感染症にかかり、小さな肺に水が溜まり、特効薬もなく、おそらく助からないであろうと言われました。今入院中なのですが、その小さな子猫も狭い酸素室の中で首にエリザベスカラーを付けて、必死に出たい出たいと鳴いています。本当に、関係ないかもしれません、その姿を見たら、飼い主の私がいちいち文句なんて言ていられなくて、生きていると云うことは絶対頑張りまくるしかないのです。

無かったことにされたくないから、最後の一瞬まで努力し続けます。

どうぞ宜しくお願い致します。観に来てください。

2012年11月1日 バナナ学園純情乙女組 二階堂瞳子